

福祉生活病院常任委員会資料

(令和 7 年 8 月 2 1 日)

【 件 名 】

- 終戦 8 0 年 平和祈念プログラムの開催状況について
(福祉保健課) . . . 2
- ヤングケアラー支援フォーラム兼関係機関職員研修会の開催結果について
(孤独・孤立対策課) . . . 4
- 令和 7 年度介護人材確保対策協議会 (第 1 回) の概要について
(長寿社会課) . . . 5

福 祉 保 健 部

終戦80年 平和祈念プログラムの開催状況について

令和7年8月21日
福祉保健課

終戦から80年の節目にあたり、平和祈念プログラムとして戦争の記憶パネル展の他、8月13日に「戦後80年平和の祈りと誓いの集い」を開催しましたのでその結果を報告します。

1 戦後80年平和の祈りと誓いの集い

(1) 開催日：8月13日（水）午前10時から正午まで

(2) 会 場：鳥取市民会館 大ホール

サテライト会場 エースパック未来中心 セミナールーム1

米子コンベンションセンター 第5会議室

(3) 参加者数：約330名（鳥取市民会館300名、未来中心10名、米子コンベンション20名）

(4) 内容

①講演

県内外の講師が、自身の疎開体験や戦死した父親のこと、故郷であるウクライナの戦争被害と復興などについて講演を行った。

・徳島県遺族会 濱 順子 副会長兼女性部長（日本遺族会女性部会「平和の語り部研修会」講師）
「戦争を語り継ぐ」

・ユリア・メドベージェワ 氏（公立鳥取環境大学外国人研究者）
「戦争の歴史と記憶 ウクライナと日本 ー戦争のない未来を築くためにー」

②戦争体験者の証言映像の上映

県の補助金により鳥取県遺族会が県内の戦争帰還者等の証言映像を制作し、戦争の悲惨さ、平和への願いを次世代に伝えるため映像を上映した。

[証言者の概略]

・宮本 義雄 氏（若桜町 元若桜町長 大正12年生まれ 今年102歳）

19歳で海軍に志願し、台湾や国内の海軍基地で働くが、終戦10日前に除隊。

・武田 修 氏（若桜町 元若桜町議会議員 大正13年生まれ 今年101歳）

16歳で陸軍へ志願し、整備士としてニューギニア、フィリピン、台湾と転戦。終戦後無事生還される。

・石橋 孝子 氏（智頭町 大正13年生まれ 今年101歳）

19歳で亡き従姉の夫と結婚、その5か月後に夫は出征。女兒を出産するが、昭和20年6月に夫がミンダナオ島沖で戦死。21歳で未亡人となる。再婚し2児をもうけるが離婚。3人の子供を抱え苦労される。

③子どもたちの平和に関する発表

鳥取県遺族会主催の平和の語り部学習を受講した小学生、修学旅行において平和学習に取り組まれた中学生が、平和の尊さや今の自分にできることなどの感想を発表した。

鳥取市立米里小学校 6年 坂口 遥香 氏、山根 楓真 氏

鳥取市立西中学校 3年 椿 咲良 氏

④平和への誓い

・知事、登壇者に、地域社会の歴史や課題について研究活動されている鳥取敬愛高等学校2年生の2名（小松尊氏、山本莉奈氏）を加え、戦争のない平和な未来を築くため、平和への誓いメッセージを読み上げた。

【平和への誓い】

戦争を二度と繰り返さないため、戦争を体験された方の平和を願う声と、私たちが感じる平和の尊さを、いまを生きる者として、世代を超えて語り継いでいきます。

平和で希望に満ちた未来を築くため、平和のメッセージを世界へ発信し、ここ鳥取から、平和への一歩を踏み出します。

(5) 参加者アンケート結果、感想など

・「集いに参加して自身に変化があったか」について、約75%が「興味がわいた」と回答。
（戦争・平和について考え行動する、戦争の悲惨さを伝える、戦争を自分事として考える、自分で何ができるか考えた、など）

<感想>

・戦争について考えさせられる貴重で大切な時間を過ごせた。平和への誓い、実現を目指す。
・鳥取県遺族会の方の運動、身近なだけに子供達によく伝わった。
・鳥取県の平和への誓いを強く感じる事が出来、感銘を受けた。
・戦争を語り継ぐことと平和を創り出す活動を並行して進めていくことが大切だと思う。

2 戦争の記憶パネル展

(1) 展示期間：8月1日（金）～8月22日（金）

(2) 場 所：県庁ロビー

(3) 内 容：

①原爆パネル展示（8月1日（金）～8月12日（火））

県原爆被害者の会の協力により、広島・長崎の原爆投下後の被害状況を映した写真や絵で構成された原爆被害の実情を伝えるパネルを展示した。

（黒い雨、水を求める人々、原爆孤児、被害者の会会員の証言集、ノーベル平和賞受賞メダルの写真など）

②戦争関連パネル展示（8月13日（水）～8月22日（金））

玉栄丸爆発事故の写真や戦時中の県民の暮らしの写真、県遺族会が実施する小中学校への平和の語り部活動などの写真を展示した。

（玉栄丸の残骸、市街地の惨状、空襲に備えた防災訓練、語り部活動、戦争を学ぶワークショップなど）

3 開催中又は今後開催するプログラム

○県立図書館 特別資料展 「戦後80年 県民の継承のいとなみー戦争体験の想起とこれからの伝承ー」

戦後80年を迎え、戦争体験者の高齢化が進み、戦争を語り継いでいくことの重要性が改めて問われている今、新聞資料や体験談等の文集・記録をはじめとした地域資料等から体験者の記憶をたどり、戦争の記憶とこれからの伝承活動の営みを紹介する。

(1) 会期：8月13日（水）～9月23日（火） ※戦後80年平和の祈りと誓いの集いに併せて開会

(2) 会場：鳥取県立図書館 2階 特別資料展示室 ※集い会場（鳥取市民会館）で関連図書等を展示。

(3) 展示内容

次の4つのパートにより、戦争について理解を深めるとともに、戦争を体験していない世代が取り組む戦争体験の伝承活動を紹介し、これからの伝承について考える機会となる内容としている。

ア 「戦争」とはなんだろう？

- ・開戦、終戦を伝える新聞、戦時中に発行された県公報、使用された教科書、軍事郵便 など

イ 県民が体験した戦争 ー体験者の数だけ異なる戦争の姿ー

- ・日本赤十字社鳥取県支部の救護班に関する資料（日本赤十字社鳥取県支部蔵）

- ・水木しげる氏の「娘よ、あれがラバウルの灯（ともしび）だ」直筆原稿（県立図書館蔵） など

ウ これまでの継承のいとなみ ー記録化と物語ー

- ・本県出身者の手記、著書など

- ・岡本喜八/監督『日本のいちばん長い日』

- ・『バレー峠追悼碑建立記念誌 鎮魂の祈りを捧げ平和を誓ふ』『歩兵第三十六連隊史』など

エ これからの伝承 ー世代を超えた記憶のつながりー

- ・玉栄丸関係（新たな語り部活動の紹介パネル等）

- ・大山口列車空襲関係（中山小学校の児童と教員が体験者に話を聞いて作成した紙芝居等）

- ・鳥取敬愛高等学校社会部の研究成果と68年越しの卒業式関係資料

- ・広島市立基町（もとまち）高等学校の生徒と証言者等が共同で作成した「原爆の絵」

- ・遺族会政策の戦争帰還者等の証言映像

○県立公文書館 特別企画展 「兵士と家族 ーさまざまな戦争体験の記録ー（仮）」

出征兵士と留守家族の間で交わされた軍事郵便や兵士本人の手記・日記、写真、遺品等の資料、「銃後の守り」を担った家族や地域住民の手記や日記類をもとに、戦争に翻弄された人々や地域の姿を再現していく。あわせて、戦後の復興のあゆみについて、公文書等を利用して紹介する。

(1) 会期：11月14日（金）～12月24日（水）

(2) 会場：鳥取県立公文書館

(3) 構成

- ・出征兵士と留守家族の事例を新たに収集（借用）した資料をもとに紹介

- ・「銃後の守り」を担った人物の手記・日記

- ・戦後復興のあゆみ

(4) 関連イベント

- ・日時：12月14日（日） 午後1時から午後3時まで

- ・会場：とりぎん文化会館 第1会議室

- ・内容：映像上映及び関連する座談会の実施

ヤングケアラー支援フォーラム兼関係機関職員研修会の開催結果について

令和7年8月21日

孤独・孤立対策課

ヤングケアラーの早期発見・早期支援につなげる体制の構築を目的に、「ヤングケアラーフォーラム兼関係機関職員研修会」を開催しましたので、概要について報告します。

1 日時及び場所

日時：令和7年7月30日（水） 午前10時から正午まで

場所：鳥取県立美術館ホール（倉吉市駄経寺町）、オンライン

2 参加者

71名（県民、医療・行政関係者、在宅療養支援者、就労支援事業者、教育関係者等）

※会場：38名、オンライン：33名

3 内容

（1）講演

ヤングケアラーを見逃さない、寄り添い支援のヒント～『ホントの大人』の必要性～

・沖縄県ヤングケアラー・コーディネーター 石川七恵氏

（2）鳥取ケアラー会議

・ヤングケアラー当事者及び元当事者より自身のケア体験や体験に基づく必要な支援等についてトーク。

（3）ワークショップ

・「ヤングケアラーの人生のために今、私たちにできること」をテーマに4～5人のグループをつくり、グループトーク。



4 参加者の感想（フォーラム参加者アンケート抜粋）

- ・ヤングケアラー当事者は自覚しづらいため、大人が気付くことの重要性を強く感じた。講演にあった「違和感」を感じ動ける大人が多くいることが大切だと思う。
- ・ヤングケアラーにかかる広報を引き続き行っていく必要があると感じた。
- ・当事者の方のコメントを聞くことができたのは有意義だった。
- ・グループワークの中でも気づくことの大切さを共有することができた。
- ・精神疾患の親の生活や精神面でのサポートをするために、やりたいことができない若者もヤングケアラーにあてはまると知ることができた。

5 今後の予定

- ・県民に広くヤングケアラーの実態や支援を知っていただくため、本フォーラムの録画を鳥取県庁ホームページに掲載予定である。
- ・引き続き、ヤングケアラー支援の啓発のため、フォーラム兼研修会を開催していくこととし、周知方法や興味・関心が高いテーマについて、ヤングケアラーの支援団体や関係機関等と検討していく。

令和7年度介護人材確保対策協議会（第1回）の概要について

令和7年8月21日
長寿社会課

高齢化の進展及び生産年齢人口の減少に伴い、介護保険サービスの担い手である介護人材の確保が喫緊の課題となる中、県内の介護事業所団体等と連携し、今後重点的に取り組むべき介護人材の確保対策、介護現場の生産性向上対策について総合的に検討するため、協議会を開催しましたので報告します。

1 日 時 令和7年7月17日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで

2 場 所 鳥取県庁議会棟12会議室（オンライン併用）

3 出席者

関係団体	鳥取県社会福祉協議会、介護労働安定センター鳥取支部
介護事業所団体	鳥取県社会福祉施設経営者協議会、鳥取県民間介護事業者協議会 鳥取県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 鳥取県老人保健施設協会、鳥取県老人福祉施設協議会 鳥取県国民健康保険団体連合会
介護職員等	鳥取県介護福祉士会、鳥取県介護支援専門員連絡協議会
国	鳥取労働局 職業安定部職業安定課
市町村	鳥取市福祉部長寿社会課、米子市福祉保健部長寿社会課
有識者	株式会社TRAPE（鳥取県介護生産性向上総合相談センター アドバイザー）

※鳥取社会福祉専門学校、認知症グループホーム協会鳥取支部は欠席

4 概 要

- ・介護人材不足や生産性向上の現状や課題の共有、今後の取組等の検討を行った。
- ・教育現場と連携した介護職の魅力発信について、ワーキンググループを設置して充実に向けた取組を実施することとした。

5 主な意見等

（1）介護職員の処遇改善

- ・介護職を目指す人が適正な賃金を受け取れるように、介護報酬の改定、期中改定も含めて国に要望していきたい。（民間介護事業者協議会）

（2）介護福祉士の養成、多様な人材確保・育成

- ・公共職業訓練生に対する修学資金（R7新規事業）は5人が活用していて、利用者は非常に満足している。（社会福祉協議会）
- ・市町村推薦で県内の介護福祉士養成施設に進学して卒業後は地元就職される方に対して、県と市町村協調で学費を支援するような施策は考えられないか。（社会福祉協議会）
- ・中山間地域の訪問介護は、同行するのが難しく、十分に指導ができないという課題がある。（小規模多機能型居宅介護事業所連絡会）
- ・県社協と連携して介護助手の活用促進事業を実施しているが、高齢者だけではなく若い方々にも周知をしていきたい。（老人保健施設協会）
- ・人材紹介会社を通じた採用には、看護師であれば130万円／人程度かかってくるので、行政の支援がもらえないかという声が多数出ている。（老人保健施設協会）
- ・介護支援専門員不足の推計は、本来、居宅・包括支援センター・施設などに分類して分析する必要があるが、できていない。専門的な分析をする必要がある。（介護支援専門員連絡協議会）
- ・医療福祉は人材不足分野として位置づけ、ハローワークにおいて福祉人材コーナー設置や面接会等を実施しているので、引き続き関係機関と連携していきたい。（鳥取労働局）

（3）介護職の魅力向上

- ・介護＝重労働というイメージ払拭のため、ノーリフティングに力を入れている。小中学校にもリフトを持ち込んで、今の介護のPRも実施している。（老人福祉施設協議会）
- ・学校での出前講座は年10回程度実施しているが、学生だけではなく先生やPTAの参加もある。今

後も現場の職員の生の声が届けられるように、ワーキンググループの取組を期待している。（介護福祉士会）

- ・ 市社協が小中学校で福祉学習を実施しているが、今年度からは介護職の魅力発信もテーマに入れて、事業者と連携して実施していきたいと考えている。ワーキンググループで連携して取り組みたい。（鳥取市）
- ・ 生徒だけではなく、教員や保護者への魅力発信も大事だと思う。（介護労働安定センター鳥取支部）

（４）介護現場の生産性向上

- ・ 介護現場は多忙感が強く、補助制度があってもテクノロジーやシステム導入にたどり着く余裕がないという実感がある。県とも連携して、事業者に寄り添った対応をしていきたい。（米子市）
- ・ ケアプランデータ連携システムの導入は、早いうちに 100%を目指して取り組んでいただきたい。（社会福祉施設経営者協議会）
- ・ ケアプランデータ連携システムの普及は、普段から事業者と繋がっていて実務が分かる市町村による働きかけが効果的なので、導入率の高い米子市の例のように連携して進めていきたい。（国民健康保険団体連合会）
- ・ 介護生産性向上総合相談センターの窓口相談が少ないのは全国的な傾向だが、何を相談していいかわからないというのが実情なので、アウトリーチして現状を聞き取る場所から支援につなげていくことが望ましい。（株式会社 TRAPE）

6 教育現場と連携した介護職の魅力発信について

介護・行政・教育関係者によるワーキンググループ（WG）を設置し、介護施設職員が学校等に出向いて実施している出前講座等の更なる充実・活用促進していく。

＜WG 構成＞

鳥取県社会福祉協議会、鳥取県介護福祉士会、鳥取県老人福祉施設協議会、鳥取社会福祉専門学校、鳥取市長寿社会課、鳥取県教育委員会（小中学校課・高等学校課）、鳥取県長寿社会課

＜検討内容（予定）＞

- ・ 教育現場のニーズを踏まえた出前講座等の内容充実、新たな体験メニューの開発等
- ・ 既存の福祉教育（高齢者体験・認知症講座等）や進路ガイダンスとの連携の検討

＜その他＞

- ・ 現時点で実施可能な学校向けメニュー・窓口を一覧化して、県内学校に対して周知しているほか、家庭科・福祉関係教員の参加する会議においても情報提供を行った。

7 今後の予定

第2回会議を9～10月頃に開催し、次年度に向けた施策を検討する。